

首都高速の再生に関する ロータリークラブからの提言

「都市再生計画」



国際ロータリー 第2750地区

環境保全委員会

委員長 木村 眞(東京恵比寿RC)

1, ロータリークラブとは

ロータリーは1905年に米国・シカゴで設立された奉仕団体で、日本では1920年に東京ロータリークラブが発足し現在に至る。

全世界約120万人、日本国内は約9万人の会員がいる国際的な社会奉仕団体であり、我々は東京南部を母体とする国際ロータリー第2750地区(以下RI2750)に所属をしており、92クラブ、約4500人強の会員がおります。

RI2750環境保全委員会では、昨年起きた東日本大震災以降の都市の安全を踏まえ、2009年に東京城西、東京西南、東京杉並3ロータリークラブが推進した「東京・ロータリーハイウェイプロジェクト」を取り上げ、勉強会を行い、本日の有識者会議に環境保全委員長が参加することになりました。



ビデオ上映

© 東京杉並ロータリークラブ

こちらでビデオを見ることが出来ます

<http://www.youtube.com/watch?v=phuVr4SVXRo>



RI2750 環境保全委員会

2、首都高速道路網再編の必要性

1、老朽化

- 老朽化が進展
- 老朽構造物が直下型地震に対応していない
- 老朽化により莫大な維持費が見込まれる

2、環境破壊

- 通り・河川の景観の阻害
- 沿道の住環境の悪化（排気ガス、騒音、低周波振動の発生、ヒートアイランド現象、日照の低下など）

3、交通混雑

- 都心環状線への流入交通の6割が通過車両
- 路線の集中・分岐間 合流間 距離の短さ・急カーブの多さなどにより慢性的な交通渋滞が発生



3、首都高速道路網再編の基本方針

持続可能な、人と環境に優しく魅力ある国際首都東京の創造

- 1、新たな都心線を建設し、既存都心環状線は極力廃止する
- 2、新都心線は、安全性の高い地下に設ける事を基本とする
- 3、河川や通りの環境を改善するために、河川及び通りを覆う高架構造物を撤去する
- 4、交通混雑を解消し、利便性を高めるために、新都心環状部の車線数は現状より多い片側3車線とする
- 5、官民協力して、建設資金を調達し、建設・償還する



4、首都高速道路網再編の効果

1、防災・安全

- 老朽化した高架の撤去、地震に強い地下に建設することによる安全性向上
- 地下トンネルにすることにより耐用年限が向上

2、環境改善

- 大気汚染・騒音等の解消
- 廃熱など、未利用エネルギーの導入省エネルギー、CO2の削減
- 河川・通り上部空間の解放・復活

3、交通混雑等の改善

- スムーズな交通
- 中央環状線等の非常時の代替ルートとして機能
- 渋滞による時間損失(経済損失)



5、この事業の意義

新しい公共の姿、市民発案、住民参加による合意形成＝行政実現

1、官民一体

官民一体で資金調達し、建設・運営する

2、景気刺激

若年層を含む大量の雇用の創出

3、世界に誇れる首都・東京再生計画

日本の技術、都市再生構想を世界へ向けて発信
子孫に誇れる首都東京の構築

4、東京オリンピック2020に向けて

震災復興とニッポン復活を掲げる東京オリンピック2020の開催前に完成（東京オリンピック1964の首都高速道路のリニューアル）

